

平成 28 年度 介護福祉士国家試験 日本人受験者数激減！ 介護分野における人材不足が、受験者数に反映 受験者の内訳から、既に「老老介護」が現実化……

※ 平成 29 年 3 月 28 日付厚生労働省社会・援護局福祉基盤課発表「第 29 回介護福祉士国家試験合格発表」によると、国家試験受験者数が平成 24 年度から 27 年度までは、平均して約 15 万人の受験者がいたが、平成 28 年度（第 29 回）では、例年の約半数に過ぎなかったことが判明した。（表 1 参照）

※ さらに、受験者の年齢別を見ると、高齢化が進んでいることが判明した。（表 3 参照）このことは、介護分野における人材不足の深刻さを表しており、また、次世代の育成ができていないことをも、表していることが明確に数値で表れている。なお、日本人と外国人受験者の合格率が、拮抗していることも判明した。

I. 【受験者の半減の原因は、何かを解析】

- 表 1 によると、平成 27 年度（第 28 回）までは、連続して約 15 万人が受験していたが、平成 28 年度（第 29 回）では、一挙に約 7 万 6 千人と半減しており、その受験者数の激減の原因を究明することが重要だと考える。
- 原因の一つとして考えられることは、正規職員の減少が挙げられる。即ち、介護施設では、非正規職員の雇用が多くなり、正規職員化が進んでいないことを、この数字から読み取れる。
- 施設の経営方針としては、有資格者の雇用は、積極的に行うが、無資格者については、パート等で非常勤雇用が進んでいると考えられる。

- 施設の認可基準である介護職員の割合は、「3:1」となっており、この割合が割れれば、施設経営に甚大な影響を及ぼすこととなる。
- この人材不足を補うために、無資格者の職員を有資格者にするための勉強会・研修会等が施設内・外で行われているが、平成 29 年度においては、その対象者となり得る人材が減少したと言える。また、正規雇用者の高齢化のため、受験意欲が低かったとも言える。
- 一方、有資格者確保のために、EPA 受け入れを行い、外国人の介護士確保を積極的に進めざるを得ない現実があるが、まだ、その効果は大きく表れていないのが現状だ。

II. 【日本人と EPA 合格率の差は、19.7%】

- 表 1 を見ると、過去 5 年間の国家試験合格平均率を、日本人と EPA 受験者とを比較した場合、日本人受験者は 64% で、EPA 受験者は 44.3% であることが判明した。この差は、わずか 19.7% であり、決して日本人受験者が絶対的な優勢を保っているわけではないことが、明らかとなった。
- 「日本人と EPA 受験者の平均合格率の差が、19.7% にしか過ぎない」原因は何かと、考える必要がある。
この表から考察すると、日本人は母国語である日本語を十二分に理解できるだけの語学力と、知識を有している。

- しかしながら、EPA 受験者にとっては、日本語は、あくまでも外国語であるために、国家試験問題を読解して、専門知識を基にした適切な解答を選択しなければならない負い目がある。
- にも関わらず、その差が、19.7% にしか過ぎないことは、「日本人受験者の資質に問題」があると言わざるを得ない。
- この数値の背景には、施設が人材募集を行う時に、応募者の「資質を適切に把握」した上で採用しているかどうか、あるいは、「採用基準を厳格に定めた」上で人材確保をしているかどうか、大きな問題だ。この点を改善して今後、介護分野の人材確保を確実に行うためには、日本人職員の有資格化を行うべきだ。（表 1 参照）

【表 1 の特徴】

※ 日本人受験者の場合、第 29 回では受験者数が例年より半減しているにも関わらず、合格率は、例年より高く、72.2% を示している事。
※ EPA 受験者の場合、第 25・26 回では合格率が 30% 台であったが、27 回以降は、40% 以上の合格率を示している事。

表 1

【過去 5 年間の試験結果推移表】

（出典：厚労省）

	区分	第 25 回 H24 年度	第 26 回 H25 年度	第 27 回 H26 年度	第 28 回 H27 年度	第 29 回 H28 年度	合格率 平均	日本人と、 EPA 受験者の 合格率の差は わずか 19.7%
日本人	受験者数	136,053	154,175	153,634	152,412	76,114	64.0%	
	合格者数	87,669	99,611	93,682	88,218	54,927		
	合格率	64.4	64.6	61.0	57.9	72.2		
EPA	受験者数	322	215	174	161	209	44.3%	
	合格者数	128	78	78	82	104		
	合格率	39.8	36.3	44.8	50.9	49.8		

Ⅲ、【若者が少ないのが、 受験者の特徴】

- 表3【受験者の年齢別表】を見ると、30歳までの受験者は、全体の29%にしか過ぎない。また、表2【受験者・職種資格別表】を見ると、区分・福祉系高等学校の受験者割合は、5.2%にしか過ぎず、介護分野での若者の数がいかに少ないかが、明確に浮き出されている。
- 介護福祉士国家試験の受験者の大半が、社会福祉施設の介護職員等で

表2 【受験者・職種資格別表】 (出典:厚労省)

区分	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	割合(%)
総数(職種合計)	76,323	55,031	72.1	100.0
★ 社会福祉施設の介護職員等	47,908	34,999	73.1	63.6
老人福祉施設の介護職員等	43,876	31,933	72.8	58.0
障害者福祉施設の介護職員等	3,423	2,604	76.1	4.7
保健施設、児童福祉施設の介護職員等	567	429	75.7	0.8
その他の社会福祉施設の介護職員等	42	33	78.6	0.1
★ 訪問介護職員	13,357	9,661	72.3	17.6
★ 介護老人保健施設の介護職員	5,602	3,872	69.1	7.0
★ 医療機関の看護補助者	5,464	3,545	64.9	6.4
★ 福祉系高等学校(専攻科を含む)	3,899	2,882	73.9	5.2
★ その他	93	72	77.4	0.1

占められており、既に、介護現場に従事している人達が、「無資格者から、有資格者への転向」を望んで受験していることが分かる。

全体に占めるその割合は、63.6%にも及ぶ。

また、介護現場に従事している受験者を含めると、94.8%の受験者が、現場出身であることが判明した。

- 施設経営で重要な点は、当面の人材確保であるとともに、「将来を担う人材育成」が、非常に重要な要素となることは、経営の視点で考えると当然のことだ。
しかしながら、若者である福祉系高等学校卒受験者の割合が、わずか5.2%であることと、受験者年齢が30歳以下は、29%であることを考えると、「将来を担う人材育成」の素地が、余りにも希薄で不足していることが、明確となった。
- 表3の最大の特徴は、51歳以上の受験者が、全体の19%を占めていることにある。この数字の意味することは、既に、「老老介護時代」を迎えていることを示している。これらの諸問題を解決するためには、EPA制度を利用した人材確保以外には、根本的な解決策はない。

表3 【受験者の年齢別表】

年齢区分(歳)	人数(人)	割合(%)
～20	2,747	5.0
21～30	13,187	24.0
31～40	12,393	22.5
41～50	16,285	29.6
51～60	8,903	16.2
61～	1,516	2.8
計	55,031	100.0

Ⅳ、【受験者数から読み解く、人材不足傾向】

- 表4は、第29回(平成28年度)介護福祉士国家試験の受験者を、都道府県別に分類した表だ。
この表から見ると、最も受験者数が多かったのは、東京都で4,382人、その逆に最も少なかった受験者数は山梨県で、283人だった。(表4参照)
- この表を基に人材動向を解析すると、今後10年後の人材動向も、予測できる。

- まず第一に、大都市圏に属する地域は、当然ながら受験者数も多いが、就業人口数を分母にした場合には、決して高い割合を占めるものではなく、逆に低い数値を表している。
- 反対に、下位の順位を見ると、過疎化が進んでいる地方が多く、その中では、就業人口も絶対的に少ないために、受験者数の数は、就業者総数の中では、決して低いとは言えない。

表4 【都道府県別受験者数】

順位	上位順(人)	下位順(人)
1	東京 4,382	山梨 283
2	大阪 4,357	福井 320
3	神奈川 3,948	香川 364
4	埼玉 2,939	高知 375
5	愛知 2,854	徳島 376
6	北海道 2,809	佐賀 382
7	兵庫 2,615	鳥取 383

- よって、人材不足が顕著化していく「2025年問題」では、受験者数の多い大都市圏の施設程、人材不足が深刻化すると言える。
その根本的な要因は、高齢者の増大が大都市程、顕著になるからだ。
- しかしながら、日本全体では、介護分野だけでなく、全ての産業において人材不足がより表面化する中で、介護分野は、さらに深刻な人材不足に陥られざるを得ない。その問題を解決するためには、「EPAで外国人介護士確保」が最も現実的な対処方法となる。

★【人材育成に助成金制度を活用しよう!!】 上限500万円
日本再生人材育成支援事業(正規雇用労働者育成支援奨励金)
＜厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク 参照＞

自学能力を養うための 適切な教材！！

- ① 視覚的に学べる ② 日本語の「規則性と用法」が学べる
③ 漢字も類推して読める ④ ストーリー性があり、体系的に作られている

EPA学習支援
スカイプ・教材の問い合わせ先
ことばの研究所
電話：086-431-3481
FAX：086-431-3482
岡山県倉敷市庄新町 9-4-12

学習支援 主教材

基礎言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.1」】

ひらがな・基本漢字の習得とともに、全ての言語活動の基本となる概念を形成し、名詞文・存在文・普通動詞文を無理なく学習できる構成となっています。(2805 円)

※ 習得漢字数 310 字～620 字

※ 習得語彙数 520 語～1500 語



【テキスト「100万人の日本語 No.2」】

会社や学校、家庭内などあらゆる場面における会話を中心に構成され、社会生活に必要な抽象語を理解しながら、性別や立場による言葉の使い分けを習得できます。また、形容詞文学習により心情・語感表現力の基礎を築きつつ、各ページのコーナーで日本語のあらゆる規則性と用法を自学できます。(2805 円)

※ 習得漢字数 420 字～840 字

※ 習得語彙数 570 語～1,710 語

生活言語能力レベル



【テキスト「100万人の日本語 No.3」】

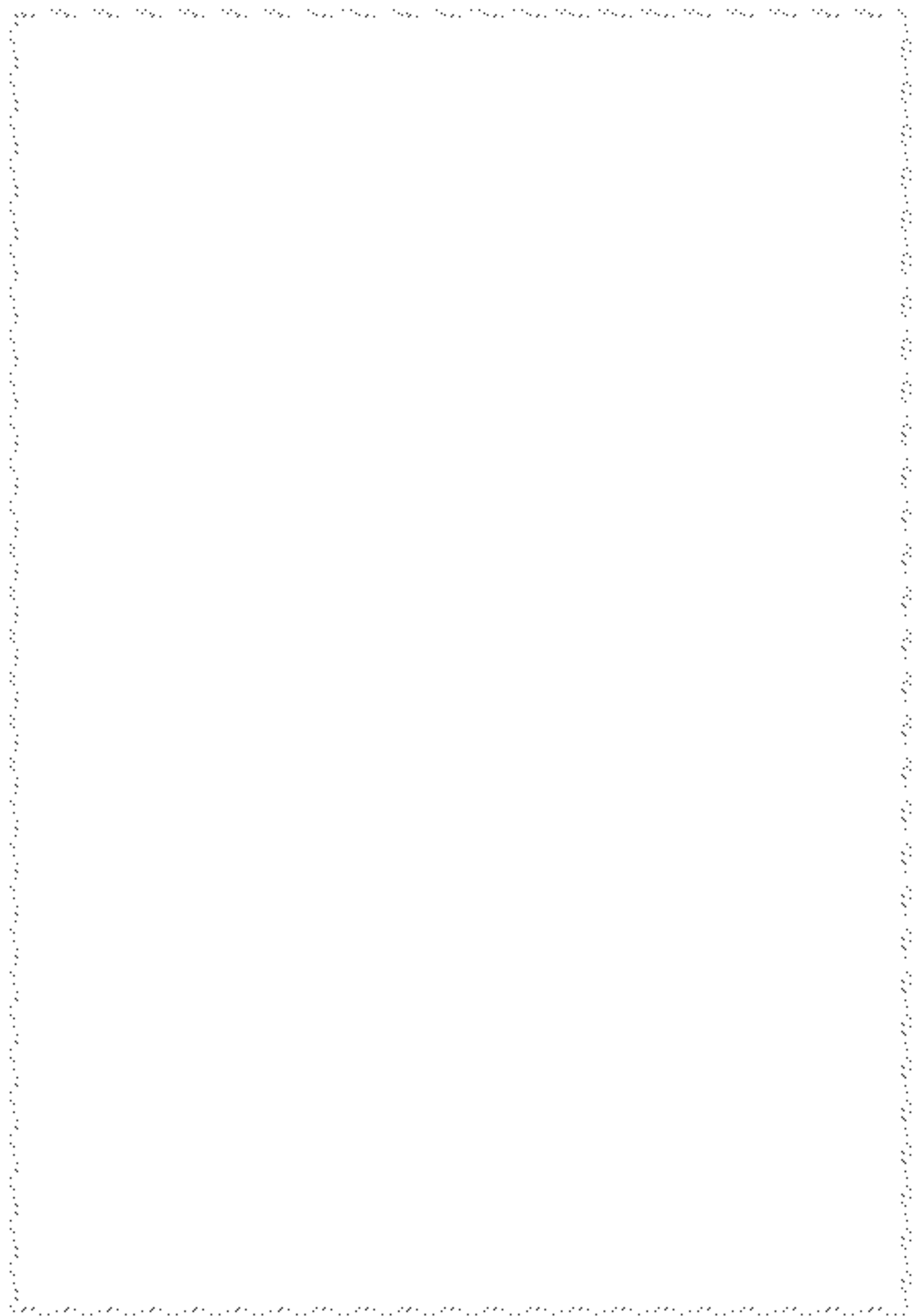
日本社会に適應できる人間関係を理解して、目上の人に対する礼節を保つ表現力が身につきます。

論理的に文を組み立てた長文が書けると同時に、漢字熟語を使った要約文を書けるようになります。

仕事に関連する語彙を自分で辞書を引いて調べることができます。(3,300 円)

※ 習得漢字数 850 字～1,700 字

※ 習得語彙数 1,110 語～3,330 語



◎ 到達度試験Aコース(独立型)

ことばの研究社

<自学能力養成型コース>

【一年目 到達度試験 初回レベル～Dレベル】

※ 【自学能力】を養うことを目的としたコースです。
言語能力は、日本人の中学2年生までの能力に達するようにプログラムされています。

※ 【自学能力】を養う教材を使用

主教材 ・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材 ・ひらがな絵かきど (瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と (構文力育成用)

・カタカナノート (説明文・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1 (基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2 (熟語漢字習得育成用)

・手渡し教材随時

【二年目 到達度試験 Eレベル～国試3レベル】

※ 日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。そのため、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文書で解答できる能力が育成できます。

※ 主教材 ・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【三年目 スカイク授業 5回(1回2時間)】

※ 日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

※ 主教材 ・専門参考書

副教材 ・手渡し教材随時

・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書提出し、現場の指導に役立てます。】

※ 【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※ スカイク授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※ ※ 価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

一 年 目	★基礎言語能力の育成 ①日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。 ②1,755語の基本漢字が習得できて、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。 ③会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。	●日本語能力を養う ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで、できるようになる。 ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できるようになる。 ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができるようになる。 ④簡単な業務日誌が書けるようになる。
二 年 目	★生活言語能力の育成 ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。 ②仕事を自主的に行い、責任を持って業務を遂行する能力を養う。 ③日本語力を高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。	●国家試験受験能力を養う ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えられるようになる。 ②専門用語の漢字を「類推して読解」できるようになる。 ③自学で「過去問」ができるようになる。
三 年 目	★職域言語能力の育成 ①日本語を使った「業務実践力」を行える能力を養う。 ②会議等で意見を発言し、内容把握ができる能力を養う。 ③要約能力を養い、会議等で的確なメモをとれる能力を養う。 ④日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養う。	●国家試験合格能力を養う ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できるようになる。 ②日本事情の専門知識を体系的に把握して読み理解できるようになる。 ③マークシートの解答ではなく文書による解答ができるようになる。

◎ 到達度試験Bコース(併用型)
＜ おまかせコース ＞

【一年目 到達度試験(初回～Dレベル)+スカイプ】

※【自学能力】を養える【到達度試験】と対面教育ができる「スカイプ授業」を併用しています。

日本人の中学2年生までの能力に達するプログラムで、特に、正しい会話力が身につけられるコースです。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.1」

(日本語の規則性と用法育成用)

・「100万人の日本語No.2」

(中文読解と文脈理解育成用)

副教材・ひらがな絵カード(瞬時反応能力育成用)

・ひらがなの一と(構文力育成用)

・カタカナノート(説明・会話文の用法育成用)

・漢字の一と1(基礎漢字と文型理解育成用)

・漢字ノート2(熟語漢字習得育成用)

【二年目 到達度試験(E～国試1レベル)+スカイプ】

※日本人の専門学校生と同等レベルの言語能力に達することを目的としたコースです。

スカイプ授業併用型なので、マークシート方式の国家試験問題の解答能力だけでなく、文章で解答できるようにプログラムしています。

※【自学能力】を養う教材を使用

主教材・「100万人の日本語No.3」

(日本語の運用と活用育成用)

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【三年目 到達度試験(国試2、3レベル)+スカイプ】

※日本人の社会人と同等レベルの言語能力を養い、国家試験合格を目的としたコースです。

日本人の職員と同等に業務ができるまでの能力に達するように、プログラムしています。

また、国家試験合格後でも、同じ職場で働く意欲を養うことも目的としています。

※主教材・専門参考書

副教材・手渡し教材随時・国家試験過去問題集

【指導内容】

① 職種に合わせた専門書の理解の仕方指導

② 類推力の育成で専門用語(熟語漢字)の対応指導

③ 要約力を養い実務能力の育成指導

【学習並びに、問題点を客観的に把握するために、以下の報告書を提出し、現場の指導に役立てます。】

※【到達度試験】後は、毎回「考察票」を提出。

※スカイプ授業後は、毎回「授業内容報告書」を提出。

※※価格等の詳細については、メールでお問い合わせ下さい。

各段階の学習目標と、特徴

★基礎言語能力の育成

- ①スカイプ授業を併用するために、対面学習で、適切なプロの指導が受けられる。そのために、確実な日本語力が養える。
- ②日本語の「規則性と用法」を理解させて、【自学能力】を養う。
- ③1,755語の基本漢字を習得でき、日本人の中学2年生レベルの言語能力を養う。
- ④会話力は、生活上に支障が無いレベルで、意思伝達能力は、話し相手と円滑にできる能力を養う。

●日本語能力を養う

- ①職場での会話力は、日本人の中学2年生レベルまで到達できる。
- ②職員の指示を的確に内容把握でき、それに従って行動できる。
- ③読解力が身につくため、必要な日本語文の書類を読むことができる。
- ④簡単な業務日誌が書ける。
- ⑤スカイプ授業は、受験者の表情を教師が読み取れるので、「本当に理解しているか、どうか」が判断でき、確実な言語能力がつく。

★生活言語能力の育成

- ①日本語の「運用力」を身につけ、正確な意思疎通力を養う。
- ②仕事を自主的にやり、責任を持って業務を遂行する能力を養う。
- ③日本人の高校3年生レベルにし、夜勤業務に就ける能力を養う。
- ④日常会話力が支障なく使える能力を養う。

●国家試験受験能力を養う

- ①専門参考書の「技術編」を読み、文で答えることができる。
- ②専門用語の漢字を「類推して読み、意味理解」できる。
- ③自学で「過去問」を解ける。
- ④スカイプ授業併用型なので、問題・疑問が、その場で解決できる。

★職域言語能力の育成

- ①業務の実践力を養う。
- ②会議で意見を発言して内容把握でき、メモをとる能力を養う。
- ③話の内容を的確に、まとめる能力を養う。
- ④日本人社会人と同等レベルの言語能力を養う。
- ⑤スカイプ授業なので日本人感覚の「語感・語調」を、正しくプロの教師が養う。

●国家試験合格能力を養う

- ①専門参考書の抽象問題領域「法律・日本事情等」が読解できる。
- ②日本事情の専門知識を体系的に把握して、読み理解できる。
- ③マークシートの解答ではなく、文章による解答ができる。
- ④専門語彙と専門知識を自学できる。

【 国家試験受験能力到達度試験の特徴 】 EPA学習支援 こぼの研究社

【国家試験受験能力到達度試験】の特徴は、自学能力を養い、言語技能が並行的に伸び、受験者の対応能力が養えます。 教育効果は介護分野では、国家試験合格者を **3年間連続で、80%以上の実績を誇っています。** また、看護分野でも、EPA受験者全体の合格率が10%前後に留まっているのに対して、【到達度試験参加者】の合格率は、**55%**と高い水準を保っています。

これは、**受験者全体の合格率10%の5倍の高さ**を示しており、驚異的な合格率といえます。

※ 本試験は、あくまでも、専門領域で社会人として働ける能力を養うことを、重要視した学習方法です。

さらに、受験者が日常の業務の中で、日本人職員とのコミュニケーション能力をも身につけることができるために、介護施設や病院などで実践力のある要員として、育成することを目的としています。

※【到達度試験参加者】には、定期的に試験結果を「考察票」でお送り致します。「考察票」には、指導者用のために、具体的な指導方法を記しておりますので、安心してご指導頂けます。

レベル	合格基準	特徴	技能の種類	合格
3段階	75 % 専門学校卒の 言語能力	※ 国家試験に対する合格力と知識力を養う ◎ 国試問題に対する「文脈読解」と「要約力」 に対応できる学習をさせる。	★ 5 技能 ・ 瞬時反応 ・ 文脈読解力 ・ 要約力など	職 域 言 語 能 力 を 養 う
2段階	90 % 専門学校 2 年 の言語能力	※ 専門知識の活用力を養う ◎ 国試過去問を使った「漢字専門用語」（漢字 熟語）と「文脈読解力」に対応できる学習を させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応 ・ 漢字熟語力 ・ 文脈読解など	
1段階	90 % 専門学校 1 年 の言語能力	※ 専門知識の運用力を養う ◎ 国試過去問を中心とした問題で「読解力」 （語彙力・文意力）に対応できる学習をさせる。	★ 3 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
F段階	85 % 高校 3 年の 言語能力	※ 専門領域の基礎力を養う ◎ 介護・看護の基礎知識を基に具体的な事例で 学習させる。	★ 4 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文意読解など	
E段階	80 % 高校 1 年の 言語能力	※ 日本語の「規則性と用法と運用力」を養う ◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 運用力が身につく学習をさせる。	★ 9 技能 ・ 文読解力 ・ 図読解力など	生 活 言 語 能 力 を 養 う
D段階	75 % 中学校 2 年の 言語能力	◎ 日本語の用法を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 対応力 ・ 要約力など	
C段階	70 % 小学校 6 年の 言語能力	◎ 日本語の規則性を基に、学習目的にそった 自学力が身につく学習をさせる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文脈力 など	
B段階	70% N2レベル 小学校 4 年の 言語能力	※ 日本語の基礎知識を養う ◎ 日本語を表現するために必要な「基礎的な 知識とその使い分け」ができる能力を中心 として学習させる。	★ 11 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 読解力など	基 礎 言 語 能 力 を 養 う
A段階	75 % N3レベル 小学校 3 年の 言語能力	・ 構文力・読解力・文字（ひらがな・カタカナ・ 漢字）・助詞・接続詞の使い分けなど。	★ 13 技能 ・ 瞬時反応力 ・ 文字認知力 ・ 読解力など	
初回		受験者の現状の日本語能力を観る。		